# 子どものプライバシー プロジェクトの歴史

武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所と株式会社日本総合研究所では、2023年度よりプライバシーに関する共同研究を行っています。本展では、その研究のプロセスと成果を紹介します。

## 2023年度「プライバシーの未来と□□」

2023年度には、**「プライバシーの未来と□□」と題したスペキュラティブデザイン／トランジションデザインプロジェクト**を実施しました。

このプロジェクトでは、大学生、大学院生、そしてプライバシーに関心のある社会人など、多様な参加者が集まり、**未来に起こり得るプライバシーのあり方を「トランジションデザイン」の枠組みで検討しました。**さらに、そこで見いだされた未来の断片を作品として制作し、それをもとに議論を行うスペキュラティブデザインの実践を行いました。これらの成果は、哲学者、法学者、プライバシー研究者とともに解釈を行いました。

このアプローチによって、従来のプライバシー研究にはない新しい議論が立ち上がり、デザインアプローチによるプライバシー研究の可能性が見いだされました。

## 2024年度「子どものプライバシーワークショップ」

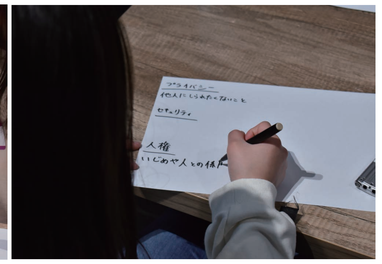
2024年度には、本年度のプロジェクトのプレ調査として、子どもたちとのワークショップを実施し、子どもたちのプライバシー観をリサーチしました。

ワークショップでは、子どもたちに

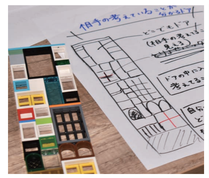
**「お父さんが自分の部屋に入ってきたらどう思う？」**

**「お母さんがママ友に自分の写真を見せるのはどう？」**

といった、プライバシーに隣接する問いを提示し、その回答をもとにディスカッションを行いながら、子どもたちの価値観を探索しました。




また、**「プライバシーを守るためのひみつ道具を作ろう」**というテーマで、レゴブロックなどを用いたプロトタイピングワークショップも行いました。これらの活動を通じて、子どもたちが感じている「世間」と「その外側」、そしてプライバシー侵害に対してどのような問題を感じているのかといった価値観が浮かび上がってきました。詳しい結果については、展示されているパネルをご覧ください。



## 2025年度「子どものプライバシー探究プロジェクト」

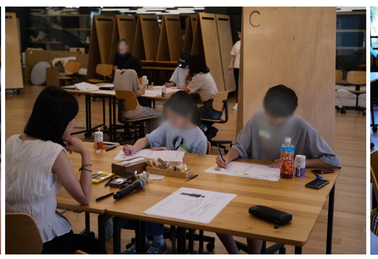
2025年度には、プレワークショップの結果を受け、さらに子どもたちとのワークショップを実施しました。その結果をふまえ、**子どもたちと／子どもたちのプライバシーを考えるためのカードゲーム型ツール「ひみつオーダー」**を開発しました。また、**子どものプライバシーをテーマとしたインスタレーション作品「ホーム（アンド）ビデオ」**の展示を行います。

### ▶ 子どものプライバシーと自己決定

プライバシー侵害は、個人の自己決定に影響を及ぼします。プレワークショップの結果を受け、子どもたちの自己決定の意識について考えるワークショップを実施しました。

ワークショップでは、小学生の子どもたちとともに、世の中の「きまり」は誰によって決められているのか、もし自分がさまざまなことを決められるとしたらどうしたいか、といった問いについて考えました。

これらのワークを通して、**世代ごとの自己決定に関する認識や、社会の「決定」に対する感覚が浮かび上がりました。**詳しい結果については、展示されているパネルをご覧ください。



# 子どもたちと「プライバシー」のリアリティ

この人はイイけど、あの人はイヤ。ここまでは仕方ないけど、ここから先は絶対にやめてほしい——
ワークショップでの発話を探っていくと、現代の子どもたちならではのリアルな価値観が浮かび上がってきました。

家族に対する基本的な信頼

ちょっとウザいときもあるけど…

**家族のやることなら
まあOK**

最も恐れているのは家の特定

**名前や顔と住所が
知られると
家バレしちゃう**

距離感やOK／NGの多様性

防犯カメラがあったら、その映像を

**知ってる人に見られるのはイヤ**

**知らない人に見られたくない**

**校長先生に
バレたら処罰される？**

「じぶん」の認識のユニークさ

**最近のはイヤだけど、
赤ちゃんのときの写真は
共有されても
ぜんぜん気にならない**

情報管理に対する合理的な思考

**タブレットはぜんぶ先生に
見られてるし、テストの点とか
貼りだされて見られたところで
特に何も思わない**

**誰かに話したら
秘密が広まっちゃうのは
しょうがない…**

情報管理に対する合理的な思考

# 子どもたちのプライバシーをめぐる状況

現代の子どもたちにとって、インターネットを活用した学習や遊びは、日常に欠かせない体験となっています。
デジタル技術の進歩やデータ活用が高度化する今、子どもたちのプライバシーをめぐる状況も大きく変化しています。

## プライバシーとは？

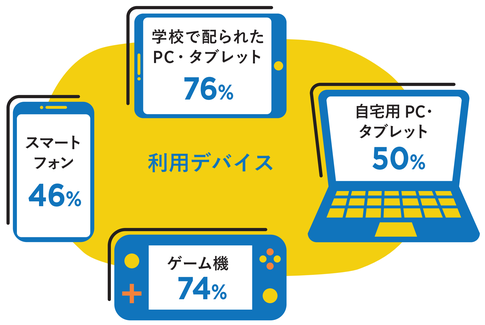
- 個人が他者からの干渉や監視を受けることなく、自己の情報や行動をコントロールする権利。
- プライバシーの範囲は、個人の価値観や取り巻く環境によって変化するため、一律ではない。
- データ活用の高度化に伴い、プライバシー保護の観点から考慮すべき範囲が拡大している。

## 子どものプライバシーをめぐる法整備やデータ活用の状況

- 欧米をはじめ諸外国では、子どものプライバシー保護に関する法規制が存在するが、現在、日本の個人情報保護法には明文の規定がない。
- 教育現場において子どものデータを学習指導や健康管理に役立てようとするなど、すでに国内でも子どものデータ活用は活発化。
- 個人情報保護法の25年改定に向け、事業者が子どものデータを扱う際に法定代理人（保護者等）の同意を求めることなどが議論されている。
- デジタルネイティブである子どもたちの主体的な意見を尊重しながら、安全で有益なデジタル環境をどのように実現するかが、社会的な課題に。

## 小学生を取り巻くメディア環境

### 小学生（10歳以上）のインターネット利用率 約97%



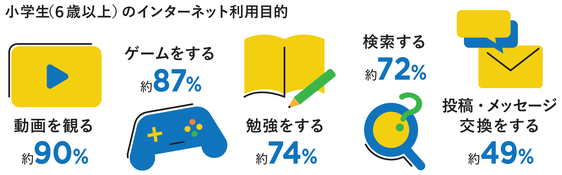

出典：こども家庭庁「令和６年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果（速報）」

インターネットを利用している小学生（10歳以上）の
**3人に2人（約72%）が 自分専用のスマートフォンを所持**

出典：こども家庭庁「令和６年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果（速報）」

インターネットを利用している小学生（10歳以上）の **約9割が オンラインゲームを利用**

小学生（6歳以上）のインターネット利用目的




出典：こども家庭庁「令和６年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果（速報）」

小学生高学年の **58%がSNSを利用**

サービス別SNS利用率（小学生高学年／2023年）

| LINE | TikTok | Instagram | X (Twitter) |
|---|---|---|---|
| 48% | 31% | 9% | 2% |

出典：モバイル社会研究所「2023年親と子の調査」

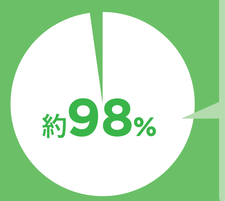
小中学校における **1人1台端末 ほぼ100%**
（2022年末時点で 99.9%）

ICTを活用した小学校の授業の例

出典：文部科学省初等中等教育局 修学支援・教材課「義務教育段階における1人1台端末の整備状況（令和４年度末時点）」

## 保護者世代のメディア環境 ※40代と仮定

### スマホ利用率




利用しているSNS

| LINE | Instagram | Facebook |
|---|---|---|
| 95% | 49% | 38% |

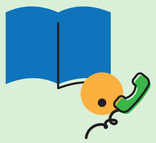
| YouTube | X (Twitter) | TikTok |
|---|---|---|
| 89% | 45% | 21% |

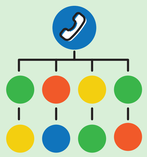
出典：総務省情報通信政策研究所
「令和４年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」

### 子ども時代の風景は？

- 小～中学生 ● インターネットの普及が本格化
  ● ポケベル流行
- 高校～20代前半 ● 写メール流行
- 20代前半 ● mixiなどブログ流行
  ● iPhone日本上陸
- 20代後半～30代前半 ● LINE普及拡大

**一家に1冊電話帳**
個人宅や企業の電話番号・住所を載せた電話帳が、無料で配布されていた。





**名札や連絡網も**
小中学生は、名札を付けて登下校。学校からの緊急連絡用に、クラス全員の電話番号と住所が書かれた連絡網も配布されていた。

# 子どもたちを取り巻く世界

子どもたちは普段、どんな人と
どんな付き合いをしているのでしょう。
発話をもとに、関係性や心の距離感を
整理しました。

## 家庭

家族として基本的な信頼がある
部屋に入られても「仕方ない」

### 兄弟姉妹

されたら嫌なこともあるが
基本的には受け入れている

### 保護者

自分を守ってくれる存在
怒られたくない（知られたくないこともある）
最も信頼する大人

### 泥棒やストーカー

漠然とした恐怖

### 地域の人

生活の中で接しているはずだが
全く意識が向いていない

### 保護者の友人・知人

自分に対して
悪いことはしないはず

写真や情報を
共有することも

まあいいか

やめて
ほしい

情報共有

## 無関心

## 学校・塾・習い事

子どもにとっての「社会」
特定の場で日常的に会う対面の関係性

### 【職員室】

ちょっとのぞいてみたい
どう過ごしているのか気になる

#### 校長先生

少し遠い存在
権力があるので
何か処罰されたら
怖い

#### その他の先生

お互いによく知らない

### 【塾・習い事】

#### 習い事や塾の先生

保護者や学校の先生に言えない
悩み事を相談することも

#### 習い事や塾の友達

連絡先を交換

### 【教室】

なんでもは見られたり
知られたりしたくない

#### クラスメート

#### 担任

普段の姿を
よく知っている
管理すると同時に
守ってくれる
怒られたくない

#### 仲のいい友達

学校や家で遊ぶ
ゲームもする（ボイチャも）

自分の個人情報を
教えないでほしい

## オンライン

対面では関わらないが
当たり前に存在している世界

### 【ゲーム】

#### 友達の友達

リアルな繋がりを
求められると怖い

#### その他のゲーム仲間

ボイチャはしない
リアルな繋がりを
求められると怖い

#### 親しいゲーム仲間

ボイチャする
リアルな繋がりを
求められると怖い

#### その他のゲームを
#### やっている人

#### ユーチューバーや
#### インフルエンサー

一方的に見るだけの
遠い存在
少し憧れがある

## 本人

#### 昔の自分

今の自分からは遠い
見た目が全然違う

# 子どもたちの行動原理

プライバシーをめぐる子どもたちの発話を探っていくと、
日常の行動や思考のベースとなっている価値観が見えてきました。

## ストレス発散

- 裏アカで つぶやく

## チャンス！

- 好きな人に 好きなことが 伝わってしまう
- 他の人の 悪事が先生に バレる

## しかたない

- 保護者の友人に 写真を共有される
- テストの点数や 成績が知られる・ 公開される
- 学校の タブレットの 利用状況が 監視されている
- 打ち明けた 秘密が他の人にも 知られる

## こわい

- 保護者に 怒られる
- ストーカー 誘拐や強盗
- オンラインでの つながりの人が 顔や家を知りたがる
- 家を 特定されて 来られる
- 身バレ
- 名前や住所を 知られる

## イヤだ

- 自分の悪事が 保護者や先生に バレる
- 監視 される
- 保護者と 先生の間で 家／学校での 様子を共有 される
- 先生に 怒られる
- からかわれる
- 着替えを クラスメート等に 見られる
- 自分のものを 勝手に触られる

# 子どもたちの「自己決定」のリアリティ

「なに」を「誰に」見せるかを、「誰が」決めているのか。第２回ワークショップから
子どもたちの「自己決定」に対しての距離感が見えてきました。

WHO

## 誰が 決めているのか

### 決めているのは 自分だけじゃない

朝ごはん・学校・時間割…多くの「毎日の選択」が親や先生・国によって決められていると感じている。

### 先生や学校には「見られる前提」がある

タブレットの閲覧・テストの掲示など、「学校の情報は開かれるもの」として現実的に受け止めている。

WHAT

## 子どもが 何を 決めたいのか

### 理想の時間割は「自由」「好きな科目」の組み合わせ

低学年はとにかく「自由時間」
高学年は「基礎科目のバランス」
中学生は「目的志向の科目配置」

### 自分で決めたいのは「好きなこと」「未来のこと」

低学年は「服・食べ物・遊び」、高学年は「進学・人間関係」、中学生は「クラスやお金の使い方」へと、決めたい領域が広がる。

HOW

## 子どもは どう判断 しているのか

### 「知られたくない」は年齢とともに深くなる

小学生は「好きな人・住所」
中学生は「健康・視力・嫌いな食べ物」
など、自己イメージの領域が広がる。

### 「誰に知られるか」で感情が大きく変わる

共通の趣味を誰かと共有するのは嬉しいけれど、趣味によって変な判断が下されるのは嫌。

### 子どもたちはすでに「小さな自己決定」を行っている

情報の開き方/人との距離/見られ方を年齢なりの合理性で判断している。

# ワークショップを終えて

子どもたちとのワークショップを終え、本共同研究を主導する
若目田光生（日本総研）と長谷川敦士（武蔵野美術大学教授）が、
印象的だったことや得られた気づきについて語りました。

**長谷川 敦士**

武蔵野美術大学造形構想学部教授

インフォメーションアーキテクト。デザインの民主化をテーマに
サービスデザインの普及や新しいデザイン教育に取り組んでいる。

**若目田 光生**

株式会社日本総合研究所
創発戦略センターシニアスペシャリスト

経団連データ戦略WG主査等の活動を通じ、広く国のデータ流通政策に関与。
プライバシーや人権の重要性に関し、社内外への発信や啓発も行っている。

## 未知の世界は、子どもたちにとって無関心の領域。

Hasegawa

子どもたちは、家とオンラインと学校や塾など、狭い世界で生きている。自分が知らない相手には関心がないし、相手も自分に関心を持つとは考えていない。子どもたちにとって、プライバシーを含めた「社会全体との関係」はまだ関心事になっていないという点は、大人との大きな違いと言えるだろう。

子どもたちにとっては、家がバレることや犯罪被害などの「身体的な恐怖心」がプライバシーを守る最も強い行動原理になっている。レピュテーションリスクなど、直接的な危害を越えた実害については、まだリアリティがないようだ。一方で、テストの点数のように、情報が公表されることを「仕方がない」と合理的に捉えている面もある。自分の周りの小さな世界でものごとを捉えている反面、社会の制度やシステムに対する合理性や割り切りも見受けられた点は、子どものプライバシーを考える上で重要な観点となるだろう。

## 認識の狭さと、合理性と。子どもでありながら、意外と大人。

Hasegawa

## 子どもたちも素朴に求める「忘れられる権利」の重要性。

Wakameda

子どもたちの作品で、「過去をなかったことにできる道具」が出たのは驚き。EUではGDPRによって「忘れられる権利」が認められており、日本でも議論になっている。「人は失敗もあれば、後から気が変わることもあるので、後からやり直せることが必要だ」という基礎的な権利を、作品の中でストレートに表現していたのは大変鋭い。
また、子どもたちが他者のプライバシーを慮るような道具を考えるのもすごい。相手が知られたくないことをさりげなく知れるから、侵害しないように対応できるというのはその通り。まさに「未来のプライバシー」とは、そういうことなのかもしれない。

## オンラインゲームは、もはや日常的な遊び。

Hasegawa

オンラインゲームは、今の小学生にとって欠かせない遊びであり社交の場。リアルには知らない相手でも、一緒にゲームをしていると、ボイスチャットで話しながら遊びたくなるようだ。しかし、ゲーム中の会話を悪用されて身バレすることへの恐怖心も持っている。特に、子どもたちが住所を特定されることを極端に恐れているのが特徴的だった。

子どもたちが情報に対して合理的な感覚を持っていたり、逆に情報開示を「チャンス」や「ストレス発散」と捉えて積極的に使ったりしているのは面白い。プライバシーは守るものという前提に立って議論を始めると、子どもたち自身の重要な側面をふさいでしまうリスクがあるのではないか。

## 「守るべき」を前提に議論を始めて良いのか？

Wakameda

## 近しい人だからこそ知られたくないことも。

Wakameda

防犯カメラについて、「知らない人よりも、知っている人に見られる方が嫌」という声も示唆的だ。大人は事業者側のデータ取得に対して過剰に危険視しがちだが、子どもは案外気にしていないのかもしれない。むしろ親しい人にこそ知られたくないことがあるという視点が重要ではないか。